

一般教育総合コース

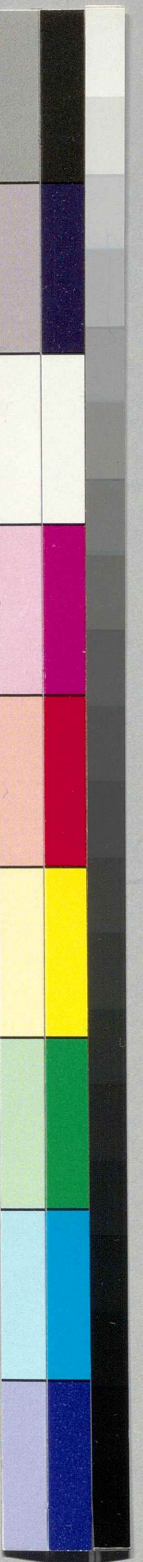
ギリシヤ・ローマ文明

1931年度

誤 1931年度
正 昭和31年度



お茶の水女子大学



プロローグ 学習上の手引

1. 一般教育と総合コース

一般教育の目的は、将来専門科学の学習に進むべき系統的知識の把握、筆算と理論の両者の解明、思考力と鑑賞力の涵養、社会的判断力の養成に資し、将来各自の専門分野を超えた市民としての責任を果す能力を養成せしめるにある。

そのためには、教授と学生と共に一般教育の課題と方法について十分な考慮を要しなければならない。人文、社会、自然科学の三系列に岐れ、さらに各系列毎に専門分化が行われている現在の一般教育は、諸君が自己の専門とすべき科目以外のものを学習するという便益があり、また将来の専門学科の基礎学として役立つ効果がある。しかし、その間接性が欠如している憾があつて一般教育の目的に十分添つていないと言ひ難い。そこで、今年度から、ここに一案として人文、社会、を主とし、自然科学をも加えて、一般教育「総合コース」を試みようとする。

一般教育の目的に鑑み、その総合性を確保しうる課題としては、人類の形成した偉大な文明、例えばギリシヤ・ローマ文明、近代文明及び現代世界、東西文明の比較、現代社会における人間の諸問題等が考えられる。今年度は、最初の試みとして、ギリシヤ・ローマ文明を取り上げることにした。

2. ギリシヤ・ローマ文明

この総合コースは、人間の創造した哲学、芸術、科学、社会、経済および国家を理解することによつて人間の研究に資しようとするものである。その目的は諸君をして一般的には人間を特殊的には諸君自らを理解し、評価しうるようにすることにある。その理解の鍵の一つは、人類の偉大な遺産として、また西洋文明の源流として高く評価されているギリシヤ・ローマ文明の中に見出さ

「総合」

菅井準一先生へ

依頼と希望する日時

(尾箱案)

下
遊
所
限
定
日

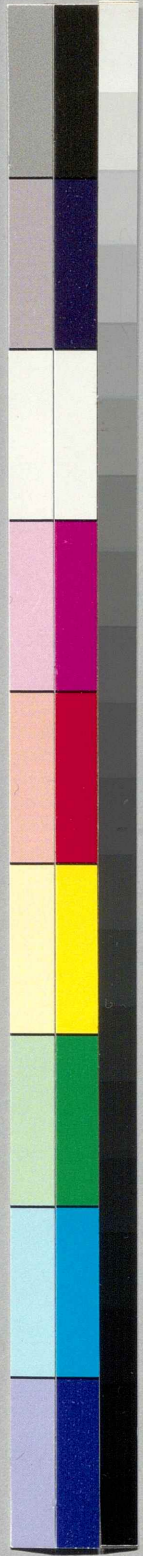
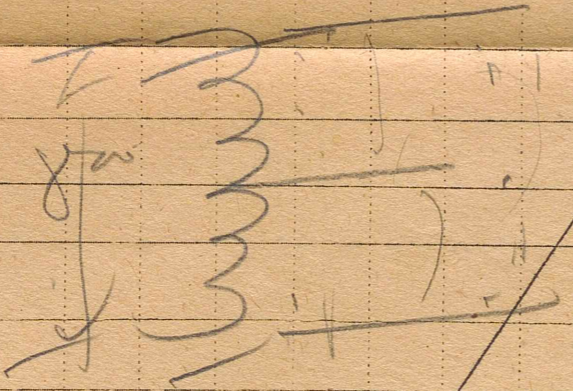
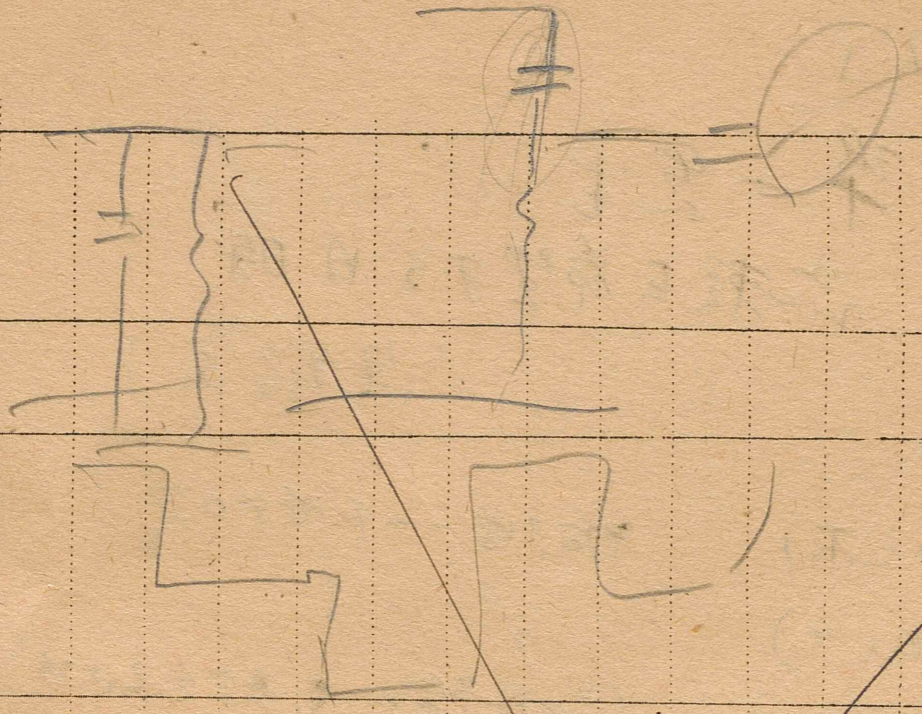
11月	8日(木)	午後3時—4時40分
"	15日(火)	"
X	"	22日(火) (文化祭予定につき、多分全学休校)
X	"	29日(火) (開学記念日につき休校)

12月	6日(火)	午後3時—4時40分
"	13日(火)	〃
"	20日(火)	〃
1月	10日(火)	〃
"	17日(火)	〃
"	24日(火)	〃

以上 8回 計 16時間

なお、7月6日(金)午前10時20分—12時の間、講師団と学生の
研究会法会があり、菅井先生も参加したいのですが、
如何かおしらせ:

講義科目	取 氏 名	前 後	一 年	前 後	二 年	前 後	三 年	前 後	四 年	前 後	再 改 訂	前 後	計	備 考	専攻科
															昭和三十一年度授業担当予定時間数調
															専攻科主任は
															印



れる。

ギリシヤ、ローマ文明は、ヘナライ、キリスト教文明と共に、西洋文明の二大源流の一つであり、いまなおその価値が高く評価されている。この文明についてその特徴と業績とを諸君自らが探求し、発見することは、単に諸君の人的教養に資するに足るのみでなく、諸君の専門的研究の論理的な出発点でもある。ギリシヤ、ローマ文明に内在している文化創造と社会形成の第一原理を理解することは、たまたま現代世界に処するわれわれの価値判断の基準としても大に役立つであろう。

キリスト以前一千年の時代に、既にギリシヤの諸都市においては、現代のわれわれが歩みまた歩まんとしている理性と自由と自治精神の上に築かれた生活の仕方が形成されたのであり、また現代のわれわれが経験しつつある戦争と革命、階級または党派の闘争、さらに世界的に拡大しゆく文明形式や社会的経済的條件や異質文明の融合過程等は決して新しい現象ではなく、既にギリシヤ、ローマ文明の矛盾として経験されたところである。この人間性のパラドックスと格闘せしむべくギリシヤ人の心を刺戟したさまざまな歴史的争執こそ、この多彩にしてしかも統一ある古典的文明の源泉であり、しかもわれわれ現代人の身近かな問題なのである。

3. 総合コースの内容と方法

この総合コースは、はじめの試みでもあり、かつ単位時間の制約もあるので、エキスペリメントの域を脱しない。しかし、事情の許す限り、課題の分担について総合性を發揮しうるよう左記の如く考慮し、時間と合計九十時間を適当に配当し、単位数六と人文三、社会二、自然一の割合とした。教材、参考書及び聴視覚資料等について、極力諸君の便宜を企りたい考えである。

なお、適當の時期、例えば夏休み前に、課外毎に託を設けて、諸君の共同研究のためのセミナーの準備をしたい。諸君の希望する班を授けて、できるだけ自主的にかつ共同的に学習研究をすすめよう。

課題項目と担当者

(1) 地理・歴史 I 地理

飯本 啓之

1. 序説

ギリシアの展望

その位置と民族の構成

2. 自然環境

(1) 土地構造の概観

(2) 気候と植物

(3) 居住様式(集落)

3. ギリシアの地方誌的考察

(1) 北部半島部

a エピルス

b ピンドゥス

c テッサリア

(2) 半島南部と諸島嶼

4. 結び

参考文献目録

1. O. Maull, Griechisches
Mittelmeergebiet

Breslau 1922

2. A. Zimmern, The Greek Commonwealth,

5th ed., Oxford 1931

3. M. J. Newbigin,

Southern Europe,

London, 1932

4. J. M. Haughton, A Social

Geography of Europe

London, 1953

5. J. A. Hammerton,

Peoples of all nations

London

(2) 地理・歴史 II 歴史

尾鍋 輝彦

1. ギリシア世界の成立(2時間)

エーゲ文化

ポリス成立以前

ポリスと貴族政の成立

過渡時代

アテネ民主政の成立

スパルタ

2. 5. 4世紀のギリシア(2時間)

ペルシア戦争

アッティカ海上同盟

ペリクレス時代

ポリスの争覇と衰微

マケドニアのギリシア征服

3. ヘレニズム時代(2時間)

アレクサンドル大王

ヘレニズム諸国

古典ギリシアとヘレニズム

ヘレニズムの盛衰

4. ギリシア史の特色 (2時間)

ギリシアにすぐれた文化の生まれに原因

ギリシア史とローマ史の比較

ヨーロッパ時代と東洋古代の比較

西洋古典古代の史的位階

5. ギリシアの歴史思想 (2時間)

ヘロドトス

トゥキディデス

ポリビオス

ギリシア史学の史学史上の意義

参考書

Langer, An Encyclopedia of World History

Glover, Ancient History (Penguin Book)

Wilcken, Griechische Geschichte

Bengtson, Grosser Historischer Weltatlas 1. Teil

世界歴史事典 (特に史料篇 西洋 I, II) 平凡社

ギリシヤ研究入門

北隆徳

(2) 社会経済

堀山 政道

1. 種族社会の構造

1) 種族社会の構造とその特徴

2) ゲノス、アラトリア、ピュレ

3) 種族社会の風習と法制

2. 都市国家の形成

1) 種族社会より都市国家へ

2) 都市国家の社会的基礎

3) 都市国家の憲法的構造

(6)

3. 古代の思想と近代の学説

1) ホメロス、ヘロドタス、テュキディデス、アリストテレス

2) 近代の諸学説

モルガン、クーランジユ、エンゲルス、ブルクハルト、

トインビー

4. 経済生活の一般の特徴

1) 食糧と人口問題

2) 農業と土地利用

3) 植民と戦争

5. 都市国家の経済

1) 奴隷制度 (取人と労働者)

2) 商業と貨幣経済

3) 財産制度

4) 海外貿易

6. 経済学の発生とその特徴

1) プラトンおよびクセノホンの経済論家政治術

2) アリストテレスの経済学説

「流通の正義」を中心として

3) マルクスのアリストテレス批判

参考書

社会・経済

1. Morgan, L. H. Ancient Society, 1877

2. Fustel de Coulanges, La cite antique 1864

(邦訳: 中川善之助「古代家族」(昭和二年))

3. Shotwell, J. T. History of History, 1938

4. ブルクハルト『ギリシヤ文化史』I (昭和二十三年)

新岡良三譯

5. エンゲルス『家族、私有財産及国家の起源』(岩波文庫)

(7)

6. Eleutheropulos *Wirtschaft und Philosophie*,
I. Die Griechen, 1915.
7. U. v. Willamowitz-Moellendorff, *Staat
und Gesellschaft der Griechen, Die Kultur
der Gegenwart Teil II Abteilung IV*, 1923
8. Zimmern, *The Greek Commonwealth, Fifth
revised edition*, 1931
9. シュンペーター『経済分析の歴史』 I (昭和30年)
東畑精一譯
10. 福田徳三『厚生経済研究』(第一章 アリストテレスの流
通の正義) (昭和5年)

(3) 政治・国際関係 I 政治

堀山 政道

1. 政治の一般の特徴

- 1) 市民意識及び市民生活の発達
- 2) 政治形態の変遷——貴族政治、君主政治、民主政治
- 3) スパルトとアテネ——国家と社会の關係

2. 政治思想の発達

- 1) 政治思想の起源
- 2) 政治形態の変遷と政治思想の発達
- 3) 政治思想と倫理觀念
- 4) 政治思想と政治的実践

3. プラトンの政治理論

- 1) 政治改革者及び政治哲学者としてのプラトン
- 2) プラトンの政治学方法
- 3) プラトンの『理想国』、『政治家』および『法治国』
- 4) プラトンと近代政治学説

4. アリストテレスの政治学

- 1) アリストテレスの「法」と「正義」の觀念
- 2) アリストテレスと混合憲法
- 3) プラトン及びアリストテレスの教育論
- 4) アリストテレスの後世に与えたる影響

参考文献

政治

1. Barker, Ernest, *Political Thought of Plato
and Aristotle*, 1906
——, *Greek Political Theory*, 1918
2. 出、陸 『ギリシアの哲学と政治』 (昭和十七年)
3. 和辻哲郎 『ポリス的人間の倫理学』 (昭和二十三年)
4. 山内得立 『人間のポリス的形態』 (昭和十四年)
5. プラトン 『国家』 (世界思想全集)
山本光雄訳
6. プラトン 『法治国』 (昭和五年)
鈴木明子訳
7. アリストテレス 『ニコマコス倫理学』 (世界大思想全集)
高田三郎訳
8. アリストテレス 『政治学』 (アリストテレス全集第十五卷)
山本光雄 (河出書房版)
9. セイバイン 『西洋政治思想史』 (岩波現代叢書、昭和二十八年)
丸山眞男訳
10. 松平春光 『欧洲政治思想史』上卷 (昭和二十五年)

1. 都市国家の興隆と

- 1) ペロポネソス戦争と都市国家の衰微
- 2) 都市国家連盟の失敗とその原因
- 3) アレキサンドロスとアリストテレス

2. ヘレニズム世界の成立

- 1) アレキサンドロス帝国の政治的意義
- 2) ローマ帝国への過渡期——コスモポリタニズム
- 3) 自然法と万民法——世界市民とストア哲学
- 4) ローマ帝国の成立

参考文献

E. Barker, G. Clark, P. Vaucher, *The European Inheritance*

vol. I (1954) — ch. II. Greece and Rome
(by W. W. Tarn)

Harold Nicolson, *The Evolution of Diplomatic Method*

ch. I. (Diplomacy in Greece and Rome) (1954)

H. Nicolson, *Diplomacy* ch. I (2nd ed. 1950)

Paul Vinogradoff *Outlines of Historical Jurisprudence*

vol. II. ch. VIII (Relations between Cities)
(1922)

Frederick L. Schuman, *International Politics*

ch. I. (Ancient state system) (4th ed. 1948)

A. R. Burn, *Alexander the Great and the Hellenistic Empire* (2nd ed. 1951)

(4) I 哲学

藤井 義夫

(1) 哲学の誕生

- 1. 神話的世界と哲学的世界
- 2. 科学的思维と哲学的思维
- 3. 哲学のギリシヤ的性格

(2) ギリシヤ初期の自然観と人間観

- 1. *Physis* と *Nómos* との対立の意味
- 2. *Sokrates* 以前の哲学者たちにおける自然哲学
- 3. *Sophist* と *Sokrates* (又は *Sophistik* と *Sokratik*)

(3) ギリシヤ哲学における三つの体系

- 1. 唯物論の体系 (*Demokritos*)
- 2. 理念論の体系 (*Platon*)
- 3. 唯物論と理念論との此岸 (*Aristoteles*)

(4) ヘレニズムの時代思潮とギリシヤ哲学の終末

- 1. *Polis* 的意識と *Kosmopolis* 的意識
- 2. *Ephouros* 哲学、*Stoa* 哲学、懷疑論の基本的性格
- 3. *Plotinos* の哲学とキリスト教

(5) ギリシヤ哲学研究の現代的意義

Werner Jaeger: *Paideia - Die Formung der griechischen Menschen 1934-1947.* (Bde II)

George Thomson: *Studies in ancient Greek Society.* 1949-1955 (Vols II)

(現代に於ける代表的なギリシヤと我々の立場)

参考文献

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ツエラー著 | 大谷 辰訳 | ギリシマ哲学史 |
| バーネット著 | 山崎幸三 監訳 | プラトン哲学 |
| バーネット著 | 神又惣一郎訳 | ギリシマ哲学 |
| 山内得立著 | | ギリシマ哲学 |
| 田中美知太郎著 | | ロゴスとイデア |
| 藤井義夫著 | | 哲学の誕生 |

(5) II 宗教

藤田 健治

1. ギリシア宗教の原始形態——神々の誕生

- a. 名となき神——宗教的畏怖の感情と呪術的儀式（豊饒の儀式と鎮めの儀式）
- b. 冥体の神——聖獣と獸神
- c. 人格神への移行形態——聖獣の皮を被る呪術者（肉となれる呪力）——呪力と現実的人間との分離及び呪力の超越化
- d. 集団欲望の投影と擬人化（大地の豊饒と種族の繁栄）——母なる大地——^{コレ}乙女と^{フロウ}若者——春のドロームメン——^{ステオン}母の神
- e. 禁忌——清戒——人身御供——善きものと古きもの（テミスとアレスピストン）——古き幣の道——祖妣

2. 古典時代のギリシア宗教——オリュムポスの神々の信仰

- a. 原始的意味よりの離脱——ホメロスとヘンオドス——作爲と不依爲
- b. 宗教改革——ヘレニズムのバヤバリズムに対する、人間の禽獸に対する勝利——ヒューマニズム
- c. 古典時代の宗教の企図したものの
 - 1) 倫理的淨化
 - 2) 神的世界の統一
 - 3) 都市國家の精神的鞏固

d. その企図の成功と失敗

3. ヘレニズム時代のギリシア宗教

- a. 運命神（テュケ、フォルテユナ）の神御——運命の必然性と偶然性
- b. 天体神——ミトラスとヘルメス——七惑星の信御——星占術——秘儀、エクスタシスとエントウシアスモス
- c. 神人——人間の神化礼拜——アレクサンドロス

ギリシア宗教参考文献

- J. Harrison, *Prolegomena to the Study of Greek Religion*
- " *Ancient Art and Ritual* (Home University Library)
- 邦譯 古代芸術と祭式（佐々木理訳）創元社
- J. Murray, *Five Stages of Greek Religion*
- 邦訳 ギリシア宗教発展の五段階（藤田健治訳）岩波文庫
- Nilsson, *Geschichte der Griechischen Religion*, 2 Bde
- Wilamowitz-Moellendorf, *Der Glaube des Hellenen*, 2 Bde

- | | | |
|-------|----------------|------------------|
| 原 隆 園 | ギリシア史研究 | 創元社 |
| 高津春繁訳 | アポロドーロス、ギリシア神話 | 生活社 |
| 田中啓史訳 | タッカー | 古代アテナイ人の生活 全同書房版 |
| 古野清人訳 | デュルガイム | 宗教生活の原形態 |
| 永橋卓介 | フヒイグー | 全林齋 |

1. 西洋古典文学の特質

時代的区分、傾向、古典文学研究の経緯
ホメーロスにおける神と人間
ギリシアの叙事詩の展開
ホメーロスの諸問題
神観と人間観、人生観

2. ギリシア古詩と近代詩

詩と創造
叙事詩、教訓詩、抒情詩
ヘシオドス、ソローン、テオガニス
サッポー、アナクレオン、ピニダロス
シモーニデースとギリシア的知性
詩における情熱と睿智

3. ギリシア悲劇について

演劇の萌芽と発展
ディオニューソスとアポローン
運命劇説
演劇論、劇のカタルシスについて

4. アリストパネースの笑い

ギリシア喜劇の発展と展開
アッティカ古喜劇の特性
アリストパネースとメナンドロス
ギリシア喜劇の影響、シェクスピア・モリエール

5. 古典散文と文学論

ギリシア散文の発展

アラトーンとイソクラテース
ローマ散文、キケロー、セネカ
歴史家たち

参考文献

洋説

- ◇ ギリシア文学史 田中為次、黒田正利著 昭14 刀江書院
原著や事項にはまづ詳しい
- ◇ 古代ギリシア文学史 高津春繁著 昭27 岩波全書
現在、日本で出たものでは一番信用される。ことに文献学的である。
- ◇ 古代ギリシア文学史(上) 同上 昭24 聖書房
上記の多少くわしいもの、組し(上)のみ
- ◇ 世界文学史概説 古代・中世 吳茂一著 昭26 角川書店
岩波文学講座と訂正したもの、専断について記す
- ◇ ギリシア・ローマ文学 吳茂一著 昭24 思索社
古典文学中の若干の題目(七項)について述べたもの。
ホメーロス、小説、詩学、Vergil、ローマ思想など
- ◇ ローマ文学史 岩崎良三著 昭17 青木書店
W. Duff のローマ文学史の訳を多少敷衍したもの、引例が多く興味本位に近い
- ◇ ラテン文学史 田中為次著 昭18 生活社
原著や事項にはわりに詳しい。

外国書は手帳などの二、三に止める(英語のみ)

A History of Ancient Greek Literature. G. Murray
1927. Appleton
" C.M. Bowra Home Univ. Lib.
Oxford U.P.

A History of Greek Literature. M. Hadas 1950
Columbia U.P.

" Latin Literature. M. Hadas 1952
Columbia U.P.

(5) 数学

丸山 廉四郎

§1 ギリシヤ数学の概観と特徴

ギリシヤ数学の内容の概観を行い、図形や数をギリシヤ人はどのようにとらえ、どのような方向に研究を進めたかについて述べる。

§2 ギリシヤ数学の諸学派とその業績。

イオニア学派、ピタゴラス学派、ソフィスト学派、プラトン学派の研究の内容について述べる。

イオニア学派、ピタゴラス学派の幾何学と数論。ソフィスト学派の研究、特に旅団問題(角の三等分、立方根積問題、円積問題)とその現代的な意義について。無限に対するギリシヤ人の考え、積尽法の発明とその現代的な意義。

幾何学の研究に対するカラトンの方法論。ユードクソス、メナイクモス等、プラトン学派の比例論、円錐曲線論。

§3 ヘレニズムの数学

(a) ユークリッドをめぐって

(1) ユークリッドの原論のできるまで

(2) 原論の内容について

(3) 原論はどんな論証の精短をとっているか

(4) 原論はその後の数学の発展でどんな役割を果たしたか

(b) アポロニウスの円錐曲線論

(c) アルキメデスの研究、技術者、数学者としてのアルキメデス、アルキメデスの数直計算論、積尽法の応用、無限に対するアルキメデスの考え。

(d) アレクサンドリア後期

球面三角法等の応用数学的研究

ディオファントスの代数学

参考文献

中村幸四郎、ユークリッド	弘文堂	昭25年
*吉田洋一、赤碕也 数学序説	席瓦館	" 29 "
近藤洋次、数学思想史序説	三一書房	" 22 "
原種行、清水英一 数学新語	賢文館	" 15 "
*オジョリ(小倉金之助訳) 初等数学史上、下		
	生活百科刊行会(小山書店内)	" 31 "
*ダンツイク(河野伊三郎訳) 科学の言葉=数		
	岩波書店	" 29 "

*印のものは新本として入手できるが、その版は入手できないと恐れます。オジョリのものは旧版は図書館にあります。上にあげたものは最近の訳で読みやすいと思います。

ギリシヤ数学について相当詳しく書かれた手頃のものは見当りません。以上あげた本の一部にギリシヤ数学が述べてあります。

物理学、天文学については下願学部長に連絡して適当な講師をきめていただくことにしてあります。その講義の概要は16日までに下願学部長から呈出することになっていきます。

本書は時間の關係上歴史時代のギリシアに限る(所謂 Kreta = Mykenai 美術は割愛)。

第一

I 総説

Gr. 人の美術的天才 — 与へられた事実として原因は詮索しない。

Gr. 人は、立派な建築(— 神殿)、繪畫(— 壁畫、蠟畫等があつたが遺品は陶器畫のみ。参考 Pompeii 壁畫)を承つたが、Gr. 人の造形的天才、のみならず Gr. 人の性格、世界觀を最もよく發揮したのは彫刻である。よつて本書では、彫刻を主とする。

- 1) 対象 — 神々、英雄(半神)、人間、動物
- 2) 用途 — 神殿裝飾(破瓦、フリーズ、メトープ)、墳墓彫刻(独立人像、墓碑、石棺)、祭神、奉納像(神々、英雄、寄進者) 記念碑(競技優勝記念等)、肖像(古典後期以後)
- 3) 材料 — 木(遺品なし)、鑄銅、石(Poros — 石灰岩、大理石)、黄金象牙像(Chryselephantinos)、Terracotta
- 4) 特質 — 人間的(多神教、神も人間的)、自由(神官、儀軌等の制肘なし)、創造的(出發は Orient、特に Egypt の影響、然し直ちに独自に展開)、理想的寫實主義(自然の理法に基づく自然の ideal case の寫實的表現)
- 5) Motive — 人体美(裸形)、節奏 movement、衣文 Draperie

附、美術家の位置

II 劃期

1) 上代 Archaic periode

VII^c — ca 470 (Kimon の時代まで)

2) 古典期 Classic periode

a) ca. 470 — ca. 500 (Peloponneso 戦役終結まで)

b) ca. 500 — ca. 330 (Alexandros 大王まで)

3) 末期 Hellenistic periode

ca. 330 — 146 a. chr. (Roma の征服まで)

III 上代 Archaic periode.

Monumental な彫刻(等身以上の彫像)は VII^c 中に始まる。Egypt に學んだ直立不動の像から人体の自然の如実な表現に発展する時期。

- 1) Xocanon 木彫像の余韻 — Nikandra 奉納像、Samos 島の Hera 等、初期の正向性 Frontality はやがて極められる。
- 2) Kouros (青年) — 所謂 Apollon, Kore (少女)
- 3) 運動表現の最初の努力 — Delos 島の Nike
- 4) 神殿、宝库の彫刻
- 5) Argina の Aphaia 神殿
- 6) 通觀 — Archaic smile, 頭部に於ける男女の区別不明瞭

第二 古典期 Classic periode

I 過渡期 ca. 470 — 450

- 1) 前代に見られた動勢の一層自由な表現への努力
- 2) Standbein と Spielbein の別
- 3) Archaic smile の消失、頭髮自然に並ぶ
- 4) 美術家の名現はる。
- 5) Olympia の Zeus 神殿

II 最盛期 (1) V 世紀後半

- 1) 対 Persia 戦争の捷利、Perikles 時代、Athenai の

Akropolis 復讐

- 2) Doris 精神と Ionian 精神との融合
- 3) 人体表現は完璧となり更に精神性、内面性を加へる。
- 4) 美相をその本質的な相に於いて捉へ、Typus を創る
(Individuell-charakteristisches を求めない)。
- 5) 神格、Ethos の表現、端正、彫塑術
- 6) 代表的作家 — Myron Polykleitos, Pheidias etc
- 7) Parthenon

第三

I 最盛期 (2) IV 世紀前半

- 1) Peloponnesos 戦役による世界観の転化、神話より哲学へ、Polis より個人へ。
- 2) 国家的事業より王者の事業へ (Parthenon → Mausoleum)
- 3) Pathos の表現、Individuelles, Subjektives の表現 肖像彫刻
- 4) 心理的性格描寫、神像の転化
- 5) 代表的作家 — Praxiteles, Skopas, Lysippos

II 末期 Hellenistic periode

- 1) Hellas の没落、美術の中心本上を離れ、小 Asia, Egypt Rhodos 島に移る。
- 2) 取材の範囲擴大 — Barbaroi, 病者、老衰、畸形、風俗像
- 3) 神像の転化 — Aphrodite, Dionysos etc
- 4) 技巧的には益々逼真の技を振ふ、解剖學的寫實、pathologische な表現
- 5) Gr. 風美術の西方への播散。

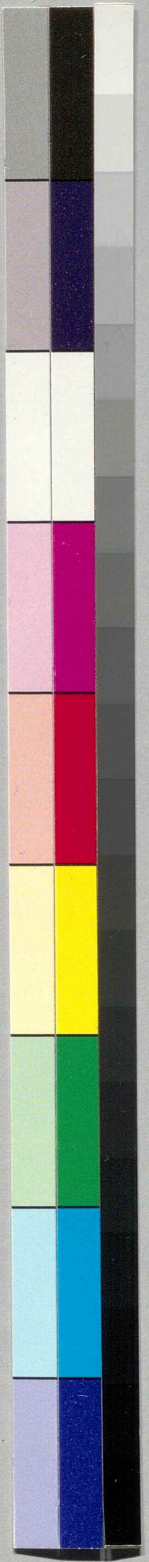
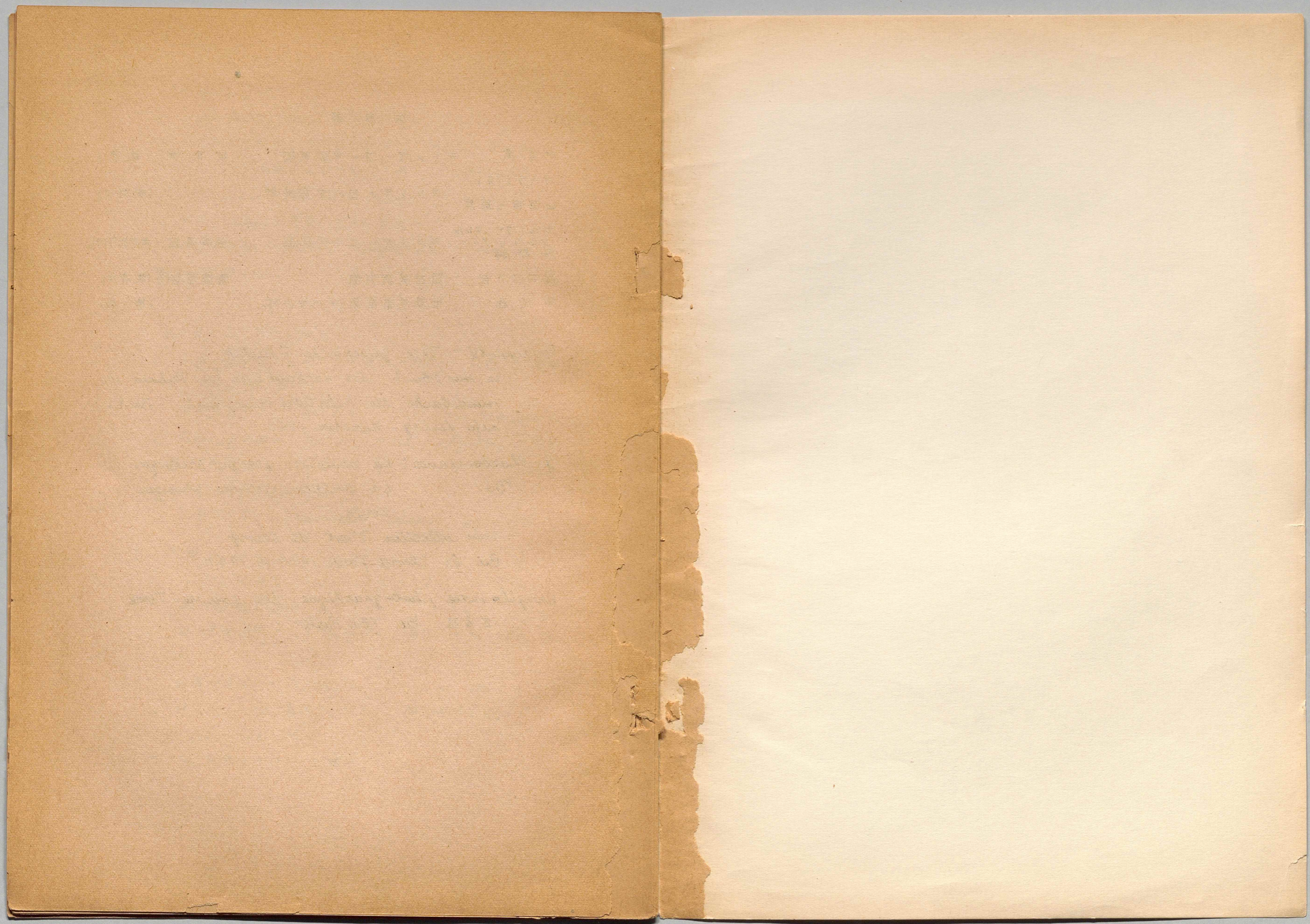
参考文献

村田 潔	ギリシヤ・ローマの美術	東京堂 (戦後)
コーデンワルト	ギリシヤ・ローマの美術	? (戦時中)
山田 啓三郎 訳	ギリシヤ・ローマの彫刻	岩波書店 (本邦初刊)
フルトヴェングレル フルリヒス 澤 村 譯	ギリシヤ・ローマの彫刻	岩波書店 (本邦初刊)
澤村 四万吉	西洋美術史講	巖波書店 (戦時中)
平凡社	世界美術全集 (ギリシヤの部)	(戦後)

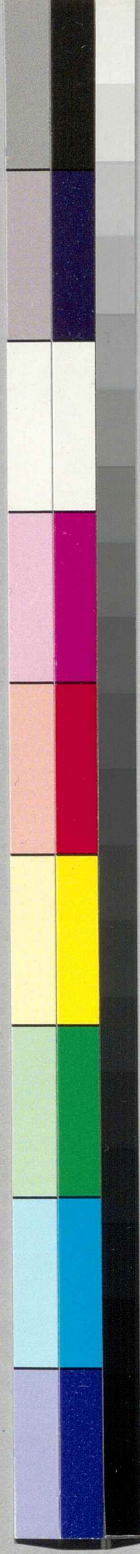
G. Lippold: Die Griechische Plastik
in Handbuch der Archäologie im Rahmen des
Handbuchs der Altertums wissenschaft. Becki-
sche Verlag, München 1950.

J. Charbonneau: La sculpture grecque archaïque.
Do : La sculpture grecque classique
2 vols.
Dans collection d'art de Cluny.
Ed. de Cluny Paris 1939 or 1943.

Encyclo'die photographique der Louvre. Tome
II & III. Ed. TEL Paris



GREECE	753 R
Modern Position.	753 R
Original Greece.	754 L
The Greek Island.	754 L
Greek Culture and its Geographical Basis.	754 R
The Greek Lands.	755 L
1. The Islands.	755 L
2. The Peloponnesus.	756 L
3. Central Greece.	757 L
4. Northern Greece.	757 R
5. Greek Macedonia and Thrace.	758 L
Bibliography.	759 L
HISTORY; Ancient to 146 B.C.: General.	762 L
(1) The Minoan and Mycenaean Ages.	762 R
The Evidence of Excavation.	762 R
Oriental Influence.	763 L
(2) The Homeric Age.	763 R
The Homeric State.	764 L
Homeric Society.	764 L
(3) The Growth of the Greek States.	764 L
Dorian Invasion.	764 R
Hellenes.	765 L
Monarchy and Oligarchy.	765 L
Trade.	765 R
Colonization.	766 L
The Tyrants.	766 R
Religion under the Tyrants.	768 L
Literature and the Arts.	768 L
(4) The Persian Wars.	768 R
(5) The Great Age.	769 L
System of Government.	769 R
The Peloponnesian War.	769 R
The Athenian Empire.	770 L
The Mature Democracy.	770 R
The City State.	771 L
Ancient Democracy and Privilege.	771 R
Slavery.	772 L
The Spartan Empire.	772 L
The Theban Hegemony.	772 R
(6) The Rise of Macedon and Alexander the Great.	773 L
The Cause of Decline.	773 L
Venality and Corruption.	773 R
(7) Alexander to Roman Conquest. (336-146 B.C.)	774 L
Federal Government.	774 L
Alexander's Empire.	774 L



(8) Ancient Authorities.....	774 R
I. Earliest Period.....	774 R
II. To End of Fifth Century B.C.....	774 R
Herodotus.....	774 R
Thucydides.....	776 L
Diodorus and Plutarch.....	776 R
The Constitutions.....	777 L
Epigraphical Sources.....	777 L
III. The 4th Century to the Death of Alexander.....	777 L
Xenophon.....	777 L
Historians of Alexander's Reign.....	778 L
The Orators.....	778 R
Isocrates.....	778 R
Demosthenes.....	779 L
IV. Later Authorities.....	779 L
*Bibliography.....	779 R

ECONOMIC AND SOCIAL DEVELOPMENT OF ANCIENT GREECE..... 779 R

Life in Ancient Greece.....	779 R
The Reasons for Migration.....	780 R
The First Civilisation.....	780 R
The Invasions.....	781 L
Food Shortage and Tyrants.....	781 R
Colonisation and Trade.....	782 L
Life in Fifth Century B.C.....	782 R
The Change in the Forth Century.....	783 L
The Currency Crisis of the Third Century.....	783 R
Slave and Free Labour.....	784 L
*Bibliography.....	784 R

POST-CLASSICAL AND MEDIAEVAL HISTORY.....	784 R --	787 L
*Bibliography.....		785 R

GREEK ARCHAEOLOGY.....	792 R --	797 R
*Bibliography.....		797 R

GREEK ARCHITECTURE.....	798 L --	802 R
*Bibliography.....		802 R

GREEK ART.....	802 R --	819 L
*Bibliography.....		819 L

GREEK LANGUAGE.....	822 R --	827 R
Ancient.....		822 R
Modern.....		826 L
*Bibliography.....		826 R
Select Bibliography.....		827 R

GREEK LAW.....	828 L --	833 L
*Bibliography.....		833 L

GREEK LITERATURE.....	833 L
1. Early Period.....	833 L
2. Attic Literature.....	835 L
3. Hellenistic Literature.....	837 R
*Bibliography.....	839 R
Byzantine Literature.....	839 R
*Bibliography.....	845 L
Modern Literature.....	845 L
*Bibliography.....	848 L

GREEK RELIGION.....	848 L --	850 L
*Bibliography.....		850 L

